2023 年度点検・評価シート

・**評価の視点**【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針

・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。

・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。

・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I 【現状】**原則 2023 年 5 月 1 日現在の状況で回答してください。**

対象部局	42 英語学専攻	責任者	フランソワ・ルーセル	
基準 4	教育課程・学習成果		自己評価	A

★基準 4 の自己評価の理由を簡潔に解説してください。

≪回答≫
英語学専攻の教育課程は、研究の推進、論文執筆、実践的語学の面で充実しており、評価できると考えられる。

点検・評価項目 (1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

★〈学位授与方針〉

建学の精神と理念にもとづき、全学のディプロマポリシーを踏まえたうえで、以下のように専攻のディプロマポリシーを策定し、ホームページに公開している。

（前期課程）
外国語学研究科英語学専攻博士課程前期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、修士論文が審査のうえ合格と認められた学生に修士（英語学）の学位を授与します。
1. 豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能
（1）英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ深い知識を身につけ実践的問題を解決できる。
（2）異文化に関する知識を深め適切なコミュニケーションが図れる。
2. 他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考･判断･表現力
（1）英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる諸問題について、情報を正確かつ批判的に読み取り、それについて自らの考えを述べ、また論文にまとめることができる。
（2）自ら設定した主題に関するデータを収集、分析し、結論を導いて発表することができる。
3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感
（1）現在の知識をもとに新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門的知識、技能を身につけている。

（後期課程）
外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、建学の精神に基づく教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所定の単位を修得し、専門分野に関する次のような高度な能力を身につけ、博士論文が審査のうえ合格と認められた学生に博士（英語学）の学位を授与する。
1. 豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能
（1）英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識、技能を身につけそれらを応用できる。
2. 他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考･判断･表現力
（1）専攻分野で研究成果を学術的な論文としてまとめ、それを国内外の学会で発表し、研究者として自立して研究活動を行う能力を身につけている。
3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感
（1）急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門知識、技能を身につけている。
（2）国内外の英語学、英語教育学、言語文化学の研究領域に対し、異文化に関する知識を深め、幅広い知識や柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き論文にまとめ発表できる。

変更	有( )
	無(✓)

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。
評価の視点２※ 【基礎要件●】	上記の方針の公表は、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７
点検・評価項目(2)	**4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。**

◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

★<教育課程の編成・実施方針>（記入してください。） 建学の精神と理念にもとづき、全学のカリキュラム・ポリシーを踏まえた うえで、以下のようにカリキュラム・ポリシーを策定し、ホームページに公開している。 （前期課程） 1. 教育内容 （1）英語学、英語教育学、言語文化学３分野にまたがる基礎的な知識及びデータ収集と処理を学ぶ共通科目群を置く。 （2）異文化理解を深め、自分の考えを英語で発表し論文にまとめる実習科目群を置く。 （3）英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じて的確な判断力と自らの思考力を発展させる専攻科目、特殊研究科目群を置く。 （4）自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表し、論文にまとめるスキルを養う専攻科目、演習科目群を置く。 2. 教育方法 （1）主体的な学びを促進するために、専攻科目、特殊研究科目群においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。 （2）少人数の専攻科目、演習科目においては、インタラクティブな教育を実施する。 （3）海外での体験学修の受講（留学）を積極的に推奨する。 3. 評価方法 （1）学位授与方針で掲げられた能力の習得度合いを、英語学専攻における修了要件達成状況、単位取得状況、毎年の中間発表、複数教員による学位論文の評価等の結果によって形成的に測定するものとする。 （後期課程） 外国語学研究科英語学専攻博士課程後期課程は、修了認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 （1）英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる広範囲な専門的知識及びデータ収集と処理を学ぶため特論科目群を置く。 （2）英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じて的確な判断力と自らの思考力を一層発展させる特別演習科目を１年次に置く。 （3）自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表できるスキルを養う特別演習科目を２年次に置く。 （4）国内外の研究領域に対し、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き発表し論文にまとめるスキルを養う特別演習科目を３年次に置く。 2. 教育方法 （1）主体的な学びを促進するために、特論科目群においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。 （2）少人数の特別演習科目においては、インタラクティブな教育を実施する。 （3）海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。 3. 評価方法 （1）学位授与方針で掲げられた能力の習得度合いを、英語学専攻における修了要件達成状況、単位取得状況、毎年の中間発表、複数教員による学位論文の評価等の結果によって形成的に測定するものとする。	変更	有( ) 無(✓)

評価の視点１ 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点２ 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点３※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート７

★※DP と CP の連関について（DP と CP の各項目の番号を矢印で紐づけてください。）

前期課程
DP1.(1)→ CP1.(1)
DP1.(2)→ CP1.(2)、CP2.(2) 、CP2.(3)
DP2.(1)→ CP1.(3)
DP2.(2)→ CP1.(4)
DP3.(1)→ CP2.(1)、CP3.(1)

後期課程
DP1.(1)→ CP1.(1)、CP2.(2)
DP2.(1)→ CP1.(3)、CP1.(4)
DP3.(1)→ CP1.(2)、CP2.(1)、CP3.(1)
DP3.(2)→ CP1.(4)、CP2.(3)

★項目 (2) 4-2DP１から DP３について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。
以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものです。なおここでは DP１のみ抜粋ですが続きがあります。
（参考事例）・ＤＰ「１．知識・技能」（１）に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、ＤＰ「１．知識・技能」（２）の「文献や資料を的確に読解する」については、ＣＰ「１．教育内容」（１）で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、ＣＰ「１．教育内容」（２）で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。

≪回答≫
（前期課程）
DP1「豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能、（１）英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ深い知識を身につけ実践的問題を解決できる。（２）異文化に関する知識を深め適切なコミュニケーションが図れる。」については共通科目群（「映像メディア論」、「第二言語習得理論」、「対照言語学」等）、実習科目群（「異文化コミュニケーション実習」I～VII）に反映されている。
DP2「他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考･判断･表現力、（１）英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる諸問題について、情報を正確かつ批判的に読み取り、それについて自らの考えを述べ、また論文にまとめることができる。（２）自ら設定した主題に関するデータを収集、分析し、結論を導いて発表することができる。」については特殊研究科目群（「英語学特殊研究」I～V、「英語教育特殊研究」Ⅰ～Ⅲ、「言語文化学特殊研究」Ⅰ～Ⅲ、「通訳・翻訳コミュニケーション特殊研究」）に反映されている。
DP3「自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感、（１）現在の知識をもとに新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門的知識、技能を身につけている。」については演習科目群（「英語学演習」I～IV、「英語教育学演習」Ⅰ～Ⅲ、「言語文化学演習」I～Ⅱ）、特殊研究科目群（「英語学特殊研究」I～V 、「通訳・翻訳特殊研究」など）に反映されている。

（後期課程）
DP1「豊かな教養と専門知識およびそれを活用する技能、(1) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野もしくは、複数の分野にまたがって広範かつ高度な専門知識、技能を身につけそれらを応用できる。」は CP1.(1)「英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる広範囲な専門的知識及びデータ収集と処理を学ぶため特論科目群を置く。」と CP2.(2)「少人数の特別演習科目においては、インタラクティブな教育を実施する。」と連携し、特論科目群（英語学特論Ⅰ～Ⅲ、英語教育学特論Ⅰ～Ⅲ、言語文化学特論Ⅰ～Ⅱ）に反映されている。
DP2「他者との共同による問題発見・解決能力とそれを支える思考･判断･表現力、(1) 専攻分野で研究成果を学術的な論文としてまとめ、それを国内外の学会で発表し、研究者として自立して研究活動を行う能力を身につけている。」は CP1.(3) 「自ら情報を

収集・分析し結論を導き出して発表できるスキルを養う特別演習科目を２年次に置く。」、CP1.(4)「国内外の研究領域に対し、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き発表し論文にまとめるスキルを養う特別演習科目を３年次に置く。」と連携し、
DP3「自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感、(1) 急激に変わりゆく現代社会で高度の専門性が求められる職業を遂行するための専門知識、技能を身につけている。(2) 国内外の英語学、英語教育学、言語文化学の研究領域に対し、異文化に関する知識を深め、幅広い知識や柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き論文にまとめ発表できる。」は CP1.(4)「国内外の研究領域に対し、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き発表し論文にまとめるスキルを養う特別演習科目を３年次に置く。」、CP2.(3)「海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。」と連携し、
DP2、DP3 は演習科目群（「英語学特別演習」Ⅰ～Ⅲ、「英語教育学特別演習」Ⅰ～Ⅱ、「英語文化学特別演習」Ⅰ～Ⅱ）に反映されている。

★教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目 (3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
評価の視点１※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-2＊大学院学則、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー
評価の視点３※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点４※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-2＊大学院学則
評価の視点５※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-2＊大学院学則、基礎要件確認シート９、10
評価の視点６※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点７※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B4-19 研究科 科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点８※	コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程を設置している。根拠資料→B4-19 研究科科目編成表（全研究科専攻、コースワーク、リサーチワークの表示が必要）
評価の視点９※	専攻の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ
評価の視点１０	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。

★項目 (3) 4-3①社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。

≪回答≫	≪根拠資料≫
英語学専攻の院生が社会に出て使うことのできる実践的な英語力を要請する目的で実習科目を多数設け、単位の取得を義務化している。	**42-C4-1：科目編成表**

★項目 (3) 4-3②当該部局のカリキュラムの編成、授業科目の配置の特性について解説してください。

≪回答≫
研究を実質的に推進するために、各専門分野に即した講義科目と演習科目を設けて指導に当たっている。また、実践的英語力を身につけさせるべく実習科目を配置している。

◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし

点検・評価項目 (4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

評価の視点１※	シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。根拠資料→A4-43Web サイト シラバス
評価の視点２※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制
評価の視点３	学習の進捗と学生の理解度の確認

★項目 (4) 4-4①授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。

≪回答≫ 入学時から各学年を通して継続的に、学生が毎年度履修することになっている指導教員の授業を通じて、学生の学習の進捗状況や理解度を把握し対応している。 このほか、毎年度に、前期課程と後期課程の学生に、修士論文と博士論文の中間発表をさせ、学習の進捗状況を確認している。	≪根拠資料≫ **42-C4-2：開講科目のシラバス（前期課程）、開講科目のシラバス（後期課程）、第一回中間発表会（議案 3、2022 年度 第 3 回外国語学研究科委員会 議事録要旨）、第二回中間発表会（報告事項 12、2022 年度 第 8 回外国語学研究科委員会 議事録要旨）、ワークショップ(第一回)（議案 11、第 6 回外国語学研究科委員会 議事録要旨）、ワークショップ(第一回)（フラヤー）、ワークショップ(第二回)（報告事項 9、第 8 回外国語学研究科委員会 議事録要旨）、ワークショップ(第二回)（フラヤー）。**

評価の視点４※	履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している（オンラインも含む）。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項,（オンラインの場合は Web サイトも可→別紙の備考に URL 記入）
評価の視点５※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス

★項目 (4) 4-4②オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているかを確認する方法などについて根拠資料を用いて回答してください。

≪回答≫ シラバスに教員のメールアドレスを公開し、教員は常時、メールや manaba、Zoom などを通じて学生からの質問・相談等に対応している。また、主として manaba を通じて課題等を提示し提出を促している。	≪根拠資料≫ **42-C4-3：開講科目のシラバス（前期課程）、開講科目のシラバス（後期課程）**

評価の視点６※	研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュールなど）をあらかじめ学生に明示し、それに基づく研究指導を実施している。根拠資料→B4-73 研究科研究指導計画、基礎要件確認シート 13

◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。

≪回答≫
なし？（組織的な取り組みがなされていない）

点検・評価項目 (5)	**4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。**
評価の視点１※ **【基礎要件●】**	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示

	・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-2＊大学院学則、基礎要件確認シート 10,12,13、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料
評価の視点２※ 【基礎要件●】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-2＊大学院学則、A4-36＊学位規則、基礎要件確認シート 10,12,13
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。	
≪回答≫ なし。	
点検・評価項目(6)	**4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。**
評価の視点１ 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※成果指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせて設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
評価の視点２ 【評価要件○】	学生の学修成果の測定方法を開発している。 ≪学修成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学修成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DP に示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
≪回答≫ なし	≪根拠資料≫ **42-C4-4：なし**
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
≪回答≫ なし。大学院では困難と考えられる。	≪根拠資料≫ **42-C4-5：なし**
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。	
≪回答≫ なし。	
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。	
≪回答≫	
点検・評価項目(7)	**4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。**
評価の視点１※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51　2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023 年度自己点検・評価について
評価の視点２ 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組みを行っている。
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例：	

・論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 ・「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 ・英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 ・論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。	
≪回答≫ なし。	≪根拠資料≫ 42-C4-6：なし
項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。	
≪回答≫ なし。	≪根拠資料≫ 42-C4-7：なし

Ⅱ現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	

Ⅲ今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	

Ⅳ【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画

Ⅴ【内部質保証委員会による点検・評価】

2022 年度＜所見＞

設定されている DP と、CP は紐づけられていて、教育課程は DP に基づいており適切である。前期課程では、専攻の院生が社会に出て使うことのできる実践的な英語力を要請する目的で実習科目を多数設け、単位の取得を義務化していることは、高く評価できる。研究者養成を中心に据える後期課程にあっては、学会発表、論文執筆、学位取得こそが就職に結びつくことであり、研究指導即ち職業訓練となっているとされている。研究者養成以外のキャリア教育がないのは残念である。

学修成果の測定結果の活用について、B 票を提出しない理由の中で、学部と異なり大学院では GPA 等による数値化はそもそも馴染まない。とされているが、GPA を成果の測定とするのか否かの選択は自由であり、さらに理由として説明されている「単位取得の必要条件」と、「学修成果の測定」とは別の問題である。また、学習成果の標準化ということもどのような意味か読み取れないが、評価の指標と測定結果の活用方法は提出されているので、測定はされると理解する。

当該専攻が評価指標と定めているのは、学位授与方針（DP）に示した学習成果、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、論文の成績学会発表率、論文発表率である。これらの活用方法として、カリキュラムの検証、対外的な成果公開指標とするとなっているので、今後、これら測定結果を改善・向上への取り組みに活かすことが望まれる。

また、2021 年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、修士・博士論文の成績、学会発表率、論文発表率、論文発表率としている。活用としては、カリキュラムの検証、DP に示した学習成果との検証、学修支援内容の検討、対外的な成果公開指標としている。これらの測定結果は今後、基準 4 の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みに期待する。

2023 年度＜所見＞

英語学専攻の学位授与方針において学習成果（知識、技能、態度等）は独自のものとして明確に HP 等に公表されてそり、専門分野の学問体系、学習の順次性についてカリキュラムツリーやカリキュラムマップも HP 等に公表されていることが確認できた。

また，学生の理解度を確認するために毎年中間報告会を開催し、指導教員以外による指導を受けることができることは高く評価できる。

項目(6) 4-6①②の学習成果の測定をするための指標とその測定方法、測定結果等に関する回答では「大学院では困難と考えられる。」とされ、根拠資料も提出されていないが、貴専攻は測定方法として修士・博士論文の成績、学会発表率、論文発表率を独自に選択して結果も把握されているはずである。根拠資料は全学教務委員会へ提出した「部局（大学院）ごとの評価指標（2022-2025）」になるので、ご確認いただきたい。その資料によれば、英語学専攻における評価指標として学会、論文発表率、修士・博士論文等の成績については、基準を満たしている或いは概ね満たしているので検証を継続しつつ、今後の良好な結果が期待される。一方、**項目**(6) 4-6②では全ての測定結果を提出することになっているが、アンケートの満足度に関する測定結果が根拠資料として提出されていなかったので、次年度はご提出いただきたい。DP の積み上げ、アンケートなどの満足度等については結果による検討及び検証を行い、今後の改善・向上へ繋げられることを期待する。

なお、学習成果の把握とその結果をどのように利用し教育活動に活かしていくのか、貴専攻の事業計画を策定されることが望まれる。

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

＜注＞「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。
解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準４教育課程・学習成果

【大学基準】

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。